

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センター保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2024年9月13日		～ 2024年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	46	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	2024年9月13日		～ 2024年9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○訪問先施設評価実施期間	2024年9月13日		～ 2024年9月30日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 29
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月1日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先と利用者の仲介役として機能している。	訪問先の事情や保護者の状況を把握し、相互理解が進むよう心がけて話をしている。	必要に応じて、訪問先施設、保護者、事業所などで集まって話をすることを検討する。
2	複数職種の見守り支援員がおり、訪問先の職員の方とは違った視点から見るができる。	アセスメントの内容に従って、必要に応じて複数職種での訪問を実施するよう心がけている。	よりきめ細やかな対象児、保護者希望、訪問先施設の希望についてのアセスメントを行うよう心がける。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所からの活動内容などについての発信が少ない(HPの記載など)。	活動内容について発信する内容に精査が必要である。	一般的な子育てワンポイント情報や発達についての知識に関するものを定期的にHPに掲載することなどを検討する。
2	保護者が参加できる研修機会についての案内が少ない。	児童発達支援で配布されている研修会案内などをもらうことができていない。	児童発達支援と同じ案内文書を配布できるよう心掛ける。
3	訪問先の都合に合わせた訪問(頻度・時間)の調整が難しい。	サービスの性質上、保護者の希望を最優先としている。	訪問先と対象児の状況により、訪問員からも利用の頻度などについて保護者に提案していく。